

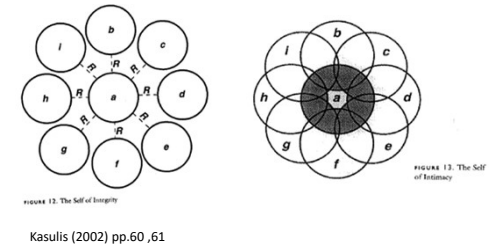
### 非西洋圏「哲学」の可能性

インド哲学 (Radhakrishnan, 1923)  
 中国哲学 (胡適, 1919)  
 日本の場合  
 東京大学の印度哲学・支那哲学 (1881) 日本哲学は？  
 井上哲次郎、東洋哲学担当の助教授 (1882)  
 欧州留学 (1884~90) 後、西洋哲学の教授  
 大学の西洋哲学講義として、カントとショーペンハウエルの哲学を講じたが、その傍ら東洋哲学として印度哲学を凡そ七年間に亘って講義をした。……日本の哲学史を纏めることも、非常に大切なことであり……日本神道史、仏教史の哲学方面で、儒教も、……講義したことは幾回もある。『井上哲次郎自伝』、pp.46-47)  
 日本儒学三部作、『釈迦牟尼伝』  
 東洋哲学⇒東洋哲学及比較宗教学⇒宗教学 (姉崎正治)  
 井上円了：哲学堂の四聖  
 哲学会の創設 (1884)

### 西洋・近代哲学の相対化

カスリスによる人間観の二類型  
 Integrity (自己統合性):  
 西洋、近代、男性、大人  
 Intimacy (他者親密性):  
 非西洋、前近代、女性、子供 (老人)  
 Kasulis, Thomas P. [2002] *Intimacy or Integrity: Philosophy and Cultural Differences*. University of Hawai'i Press.  
 (和訳: 衣笠正晃訳『インティマシーあるいはインテグリー』2016、法政大学出版会)

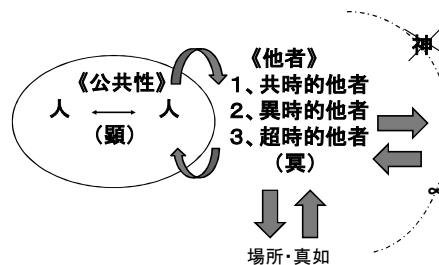
### カスリスによる人間観の二類型



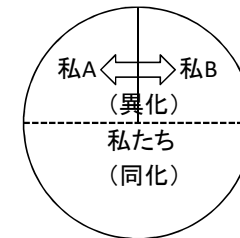
### 「冥顕の哲学」の構想

第1部 中心的参照系としての日本思想史  
 中世仏教：冥顕構造 例、慈円  
 近世神道：幽顕構造 例、平田篤胤  
 顕の中核としての政治性⇒王権 (顕) と神仏 (冥)  
 神道における「幽」：とりわけ平田系復古神道  
 第2部 他者の現象学+仏典解釈学+言語論  
 意識の現象学⇒  
 心身的世界 (=生きられた「世界」) の現象学  
 菩薩の倫理学  
 第3部 世界深化の現象学+仏典解釈学+言語論  
 宗教世界の共通構造 cf. 井筒の「東洋哲学」

### 冥顕の哲学 公共性と他者の現象学



### 他者との同化と異化



### 他者との融合と離反：十界互具

仏菩薩縁覚声聞天人修羅畜生餓鬼地獄

仏菩薩縁覚声聞天人修羅畜生餓鬼地獄

### 菩薩行としての輪廻：輪廻の再解釈

業と輪廻  
 $\boxed{\text{業} \Rightarrow \text{輪廻} = \text{苦}} \Rightarrow \text{解脱} \cdot \text{涅槃}$

菩薩行としての輪廻  
 輪廻の志願  
 往相・還相構造  
 (曇鸞・親鸞)

### フィールド構造論の応用による 仏教の世界観

$W(\text{大世界}) = w(\text{公共世界}) + w'(\text{超世界})$

絶対神(超越)

Cf. 斎藤嘉文『跳訊道元』(ぶねうま舎、2017)  
 世界+世界外=世界海

### フィールド構造と身体論

覚鑠『五輪九字秘釈』

空 Kha	脾臟	中央
風 ha	腎臟	北
火 ra	心臓	南
水 va	肺臟	西
地 a	肝臟	東

世界(W)=身体(w)=仏(w')

### 法身の言葉を理解できるか？

古義真言宗：本地身説法  
 新義真言宗：加持身説法 (頼璣)  
 本地身の説法を人間が理解できるか？

四種法身

- 自性法身 ← 本地身
- 受用法身 ← 加持身
- 変無法身
- 等流法身

源流としての栄西・尊賀論争  
 聖一派による議論の深化

### 円爾による 密教の段階 (無住聞書)